

## 2020五稜郭公園サクラ施肥プロジェクト

五稜郭公園サクラ施肥プロジェクト開催に先立ち、主催者である函館市住宅都市施設公社様の要請を受け、浅利会長が五稜郭公園のサクラの歴史や施肥についての指導、アドバイスを行いました。期間中、当会会員の吉田樹木医、斎藤樹木医、山上樹木医がサポートを務めました。



スタッフに事前指導を行う浅利会長



市民ボランティアの皆様と吉田樹木医

2020年(令和2年) 6月18日(木曜日)

### 五稜郭公園 サクラにお礼の施肥

初開催 ボランティアに40人

老齢化が進む五稜郭公園。周囲の土が酸性化し、内サクラに市民や地域産 生育状況の悪化につながり、活動に取り組み企業も、掘り、掘る可能性もある。ランティアが施肥するプロという、それを防ぐために「サクラ」の木の木へお 同プロジェクトを市住宅 市施設公社が企画した。 初日は午前、午後 後合わせて約40人が参加。 樹木の指導を受けながら、 土壌の環境整備に汗を流し、 指導を受けながら、養分を 同公園内には現在約160本のサクラがあるが、多くは植栽から60年以上が経過している。近くで作業できるが、根が張っている肥料をえた。

参加者は斎藤さんら同公園のサクラの歴史や、木のや葉の光沢を学んだ。参加した市内住の70代の無職女性は「太い根も木が、周りにある細い根が栄養吸収には大切なことを知った。自宅にもサクラがあるので施肥したい」と話した。

同公社花と緑の課の邊田千壽子課長は「後世にサクラを受け継ぐ活動に、たくさんの方が協力してくれてうれし。来年も満開のサクラが咲いてくれるように、わは同公社(0138・

24日まで参加40・3000へ。活動は30日まで行われる。(小杉真洋)

穴を掘って肥料を与える参加者

北海道新聞記事より